

核價自由便無過築効  
粉碎政治局獨占の途路

斷  
之  
也

「日本帝国主義なる力と直面しておる。ヨーロッパに、さのアーヴィング  
に於て翻訳が拡大が進んで、ヨーロッパも、同じ問題を認めた  
頭をもつていてる」と共产党別冊共产党國際公報日本特集号に書かれた指  
摘にて、「ヨーロッパは、日本帝国主義化され、今や世界反帝  
平和統一の共通した主要な敵となり、世界反帝の主柱とし

本軍の作戦行動の自由を一切保障した一核大本營

貿易制の危機は、世界資本主義世界体制の全般的な傾向に一層深化したことである。そのうえ世界本主義は更体制の再編成期において、日本に内外に

米高騰を高めつつある。極東からの米帝の一足の後退の中で日本は、極東アゴアの盟主として君臨せんとする野心を持ち、その太陽の意実としての母體の「主導的」解決を計らふとして、日本は詐説米のヌド・ジユールスの口つてヨリ。東南アジア、韓国における日本商品の侵食は、極の急激である。米帝の市場を片端から奪っていく。日本が「効向」にして、日本帝の王義間不貞は、極めて敷化してくる。そのようす中で政府は日本帝の「皇室御上」を強調し、三次防衛線を確立する。

防に用ひられる軍事力の強化、防空二法の施行採決並と云つて、  
實に至らしめていたことに向より、由帝が軍事力強化とア  
ジアの開拓としての位置を確立しつつ、沖縄返還を行なひやど  
していることを示してゐる。防江は、沖縄防江権惠を明ら  
かにしたが、これは西太平洋の防江区日本を中心的に担ひ、  
つ、従つて沖縄の「太平洋の要石」としての役割を継続させ  
北朝鮮を突破口とする社会主義に対する戦略拠点、民族解放  
勢力への侵略の前進基地として、沖縄を確保することを明白  
としている。遂て鳴物入の「本土並みに返還が実現」を  
守保破棄の斗争と沖縄民衆の敵を、即時全面返還斗争と  
結びしてヨウ一との必要性を斗争の中で確立していく  
た。今年の4・28三選は文部省より、本土へ沖縄の連帯  
タタカなどから一部極左・日和見主義的色彩を抱き、  
して全人民的な沖縄・守保斗争のオーバーとして斗争抜力  
れにのであった。10・21の日沖連席会議は、全国86万ヘクタ  
ルのヨリと量質ともに(回ると云ふ)の空前の  
規模でモロコシ開拓が実現した。10・21投票と並んで、今秋期三選

の重要な環となる佐藤訪米阻止の斗争は、沖縄—安保連合の反対である。一方佐藤の訪米を控えて、政府独占の反対的策動に反対する反獨立民主勢力は、沖縄—安保連合とし、今秋期の集会(10月)、11月佐藤訪米阻止運動に向け、大きく決起しつつある。即ち、矛盾のうつ櫛の沖縄では、是良主席の「訪米には、反対せよ」という宣言に心向かわづ、復席後は、11月1日(「全県民抗議休業日」として、実質的にコネスト体制を作り上げることを決定した)を始め、其伊原、4万6千人(コネストの主体)抗設行動、革新三要(社会、社会人民)革新支那會議(百五國体加盟)も抗設行動を更定してくる。

三 我々の斗争の方向性とし展坦主川  
沖縄が從つて、日本東南アフリカの戦争の中で、政治的にも軍事的にも重要な位置を占め、一方我々は、この沖縄返還の斗争を政府の領土主義的再編と対する斗争の一貫として把握し、とりわけ自民日本の中心的斗争として位置づけてくる。更に注意しなければならないのは、まさに政権側自らが、沖縄の「返還」を欲し、米官に譲譲していることである。そのような現状をみたてば、「我々は、『沖縄をみせせ』、『沖縄奪還』といふ言葉か、必ず何ら有効性を有する儀ではないか、政権側に最大限利用され結果を出くらせるであろう」といふ理由で、我々は、誤りであると考へて居る。

現在、佐藤に自分の生産一沖縄抗設を實現するために

四月、愛知口ジヤード委員会談、5月に口愛知口ジヤード委員会談を行ひ、沖縄—安保連合と、佐藤訪米を竟に統一する昂石支行  
ち、その仕上げとして、1月佐藤訪米がある。一方、佐藤訪米の侵略性を全般に、ハラマする事で、全般的暴起をめぐらし、訪米を阻止しなければならぬ。  
佐藤訪米阻止斗争生共大斗争実行委員会